

東北6県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携

第4号(平成13年7月)
東北地方整備局 河川部
地域河川課 発行

「個性の大地」

< 特別寄稿 >

「うつくしま 未来博」がいよいよ開催 ～ 福島発 “美しい東北の創造” ～

福島県河川課



< 「うつくしま未来博」会場(福島県 須賀川市) >

いよいよ、「美しい空間 美しい時間」をメインテーマとした、ジャパンエキスポ2001「うつくしま 未来博」が7月7日から須賀川市で開催されました。

今回の博覧会の特徴としては、日本で初めて森の中で開催する博覧会として、「森と共生する暮らし」を支える技術を披露する実験場であること、県民や来場者が、技術や人のネットワークといった、日常の豊かなくらしの「きっかけ」となるものを得ることができるよう、参加・体験・交流プログラムで満ち溢れる“プログラムEXPO”であることがあげられます。

展示としては、3D映像により、地球創造の物語を展開する「水の惑星・ジ アース」、巨大な模型等により昆虫の不思議な生態を紹介している「なぜだろのミュージアム」等の他、様々な機関や企業がパビリオンを出展しています。土木部の展示パビリオンである「21世紀建

設館」では、HMD(ヘッド・マウント・ディスプレイ)という特殊な映像装置を使用し、未来にタイムスリップした親子の体験をするなどして“森”と融合する21世紀のまち～森にすむ都市”のモデルプランのイメージを紹介しています。

他には、「もののけ姫」「となりのトトロ」の久石 譲氏が演出した、水と光、映像と音楽、最先端技術を駆使した幻想的な一大スペクタクル「うつくしまナイトファンタジア」や、インタープリター(森の解説者)と一緒に動植物たちとふれあって、楽しくアウトドアライフを体験する「森のネイチャーツアー&森の学校」など様々なイベントも企画されております。

誰でも、見て、聞いて、触って、読んで、遊んで、感じられる「うつくしま 未来博」に、是非ご来場ください。

開催期間 平成13年7月7日(土)～平成13年9月30日(日)

開催時間 9:30～18:00 平成13年7月7日～7月19日

9:30～21:00 平成13年7月20日～9月30日

会場地 須賀川市(須賀川テクニカルリサーチガーデン用地内)

詳しくは、うつくしま未来博協会にお訊ねください。

tel:0120-318915(フリーダイヤル)

ホームページ: <http://www.pref.fukushima.jp/miraihaku/>

職場めぐり～古川沼をきれいにする取り組み（岩手県川原川）～

岩手県 大船渡地方振興局土木部工務第二課



< 古川沼航空写真（岩手県 陸前高田市） >

大船渡地方振興局は岩手県沿岸南部の2市2町を管内とし、そのうち土木部工務第二課は河川、砂防、ダム及び港湾等水関係を一手に担当している職場です。今回、宮城県境に隣接する陸前高田市の川原川・古川沼における清流ルネサンス21計画の様々な取り組みについて紹介します。

二級河川川原川は陸前高田市を南北に縦断し、下流部で古川沼を形成して気仙川に合流し広田湾に注いでいます。県内最大の天然湖沼である古川沼は、かつては市民はもとより訪れる観光客からも、水遊びができ、魚類の宝庫である「オアシス」として親しまれていました。

しかしながら、昭和35年のチリ地震津波被害を契機として、昭和38年に防潮水門(フラップゲート)が建設されて閉鎖性水域となり、以降生活雑排水等の流入により水質の悪化を招き、過去には赤潮の発生や黒濁悪臭の発生による生活環境障害を及ぼすようになり、水質の改善が急務となっております。

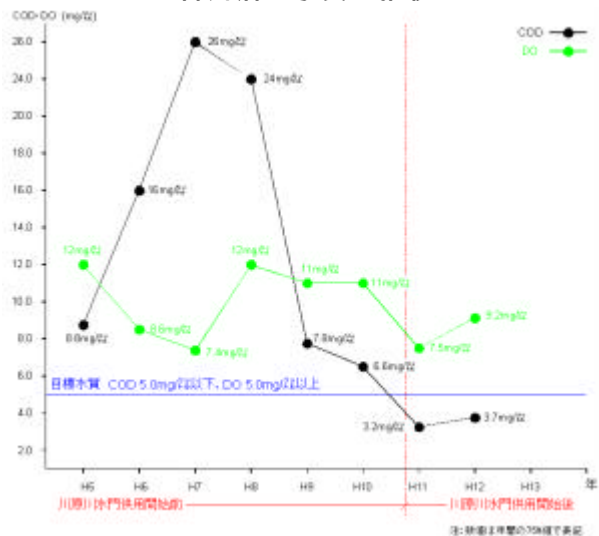
このような背景の下、岩手県、陸前高田市及び市民団体からなる“清流ルネサンス21川原川地域協議会”が組織され、水環境改善のための次のような様々な取り組みを行ってきております。

陸前高田市公共下水道事業(市・H5～)、合併処理浄化槽の設置促進(市・H1～)、ヘド口の浚渫(県・H4～)、接触酸化水路による流入水対策(県・H8～)、川原川水門の開

放による汽水化(県・H10～)、生活雑排水対策活動(市民・S63～)、河川浄化活動(市民・S58～)

これまでに以上のような取り組みを行ってきた結果、平成9年以降水質が改善され、目標年度である平成12年時点では目標水質(COD 5.0mg/l以下、DO 5.0mg/l以上)を満足させることができました。今後は、沼で生息する動植物もかつての姿を取り戻すことを期待しております。

< 古川沼の水質の推移 >



< 新たな連携による地域づくり >

「砂防事業懇談会」開催される ～ 新たな県と国との意見交換の場が発足～



砂防事業懇談会の様子

去る5月17日、山形市内において、山形県内の砂防事業を担当する各関係機関が集まって、初めての懇談会が開かれました。

会議には、主催者であります山形県をはじめとして、東北地方整備局河川部の直轄・補助担当者及び新庄工事事務所、福島工事事務所、更には、北陸地方整備局の飯豊山系砂防工事事務所が出席しました。

地方整備局が発足し、補助事業も担当することとなり、国と県の関係がより一層密接になったことを受け、今まで以上に連携がとれ、実効性のある事業執行を目的に、山形県及び

新庄工事事務所が中心となり開催されたものです。

主な議題としては、

災害発生時の緊急連携体制の確認調整
砂防事業の広報に関すること
土砂災害防止法施行に伴う新たな展開
今後の懇談会の運営

の4点について意見交換がなされました。

「災害時には、休日でもつながるように連絡先を明確しておくべき」や、また、「初動時にはダブルでもトリプルでも良いからとにかく上司に上げること等」を確認し合いました。

広報に関してのパンフレット等の作成にあたっては、“誰が喜んでくれるのか？”言いかえると、“何のために（事業を行うためではないはず）誰に、何を解ってもらうために”、の視点を是非大切にしよう確認し合い、また、土砂新法関連では、地形図作成上の様々な課題などについて話し合われました。

最後に、毎年度初めと次年度予算がある程度固まった時期（1月or2月）の年2回この会議を開催することを申し合わせました。

このような会議が、スピーディーに発足し、地域のためにそれぞれが責任を果たすことが真剣に話し合われ、かつ、今後も継続していくことを決定した有意義な会議でした。尚、紙面の都合上、出席者名は省略します。



山形県東根市泉郷地区の地すべり災害

H12.4.23



泉郷災害関連地すべり対策事業実施状況

「東北川づくり研修会」の開催予定

日時：平成13年7月25日(水) 13:00～17:00

場所：三井アーバンホテル仙台(2F 花宴の間)

仙台市青葉区本町2丁目28-11

出席者：東北6県・仙台市・東北地方整備局各事務所ほか、河川事業担当者

人事異動

東北6県・仙台市・東北地方整備局 河川部(課長以上)の平成13年度4～7月期の人事異動を紹介します。(括弧の中は旧役職を示す)

【秋田県】

建設交通部 河川課長

三浦 昭男(河川課 上席主幹)

建設交通部 砂防課長

堀江 敏明(河川課 上席主幹)

【東北地方整備局】

河川部長

江藤 隆(下水道新技術推進機構 下水道新技術研究所 研究第一部長)

河川調査官

馬場 仁志(北海道開発局 石狩川開発建設部 千歳川河川事務所長)

河川調整課長

大嶋 武志(福島工事事務所 副所長)

河川工事課長

神崎 彰(河川部 河川管理課長)

河川管理課長

島貫 徹(仙台工事事務所 副所長)

編集後記

お久しぶりです。新年度に入り新規や概算要求ですっかり忙しくなり発行が遅れておりましたが、ようやく第4号を出すことができました。

この4月からの約3ヶ月間は、新規要求ヒアや実施認可等補助事業としての新たな経験を積み、県・市との「連携」を実感した期間でした。

これから夏に向け、スタミナを付けて日夜奮闘しますので、よろしくお祈りします。

今回は、福島県河川課から7月7日(川の日)から開催された「うつくしま未来博」を特別寄稿として掲載しましたが、他の県・市においてもどのような話題でも結構ですので、投稿をお待ちしております。

本誌に関して御意見、問い合わせがございましたら 地域河川課 までお願いします。

発行 国土交通省 東北地方整備局 河川部 地域河川課

〒980-8602 仙台市青葉区二日町9番15号

022-225-2171(大代表)、225-2024(直通) FAX022-282-6690

ホームページアドレス、<http://www.thr.mlit.go.jp/>(東北の川めぐり)

